

平成30年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 自主的精神に充ち、謙虚に学んで、豊かな教養を身につけた人間の育成 2 人の価値を尊び、敬愛の念をもち、協調性に富む人間の育成 3 常に全体の一員であるという自覚をもち、責任と恩義を重んずる人間の育成 4 心身の健全なる発達を図り、公正なる判断力を養い、己の道に徹し、進んで実行する人間の育成
(2) 現状と課題	1 本校は、上級学校進学率が8割を超す県内有数の進学校であり、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足の解消など、県が抱える課題を克服するため、医学部や難関大への進学者を増やすことが期待されている。また、過去、SSHで培った指導法や経験・実績を、現在の教育活動にいかし、生徒一人一人が自らの夢を実現させるべく主体的に学習に取り組むための指導実践が求められる。 2 様々な悩みを抱える生徒に対して、悩みを早期に発見し全職員の協働による丁寧で適切な対応が求められる。
(3) 重点目標	1 学習指導の充実 2 キャリア教育の推進と充実 3 生徒指導の充実と道徳教育
(4) 結果の公表	保護者に文書で報告するほか学校ホームページで公開する。

学校整理番号	14
学校名	青森県立八戸北高等学校
全日制の課程	本校・校舎・分校

自己評価実施日	平成31年2月1日(金)
学校関係者評価実施日	平成31年2月14日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 3名、保護者代表 2名 計 5名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	三年間を見通した指導計画(教育課程)と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 50分授業完全授業を行う。 教員相互の協力的体制の確立と教科横断型教育内容の研究と実践。 アクティブラーニングの一層の推進と研修会への積極的参加を促す。 基礎的学習事項の定着と発展的学習による学力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 50分完全授業実施と教育課程を検証した。 探究型学習やESD学習においてこれまでのSSHの経験を生かした授業実践を進め、ユネスコスクール認定をめざした。 添削や小テスト実施とともに、ハイレベル講座や幅広い学力集団への指導を行い生徒個々の学力向上を目指した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い学力層への個別指導に昼休みや放課後も時間を割いて対応して貰い感謝している。 意欲的で緻密な取り組みに感心している。多忙化につながらないことも願いたい。 教職員の一体感をさらに高められるように工夫を。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位制高校としての北高において、生徒の興味関心を刺激する授業実践を基盤とする教科横断的な教育課程を構築する。 生徒が主体的に参加する授業、気づきから自発的に学びへ迎える生徒の育成など教員の一層の授業力向上を目指す。 全体の目標へどのように考え動くか、教職員の共通理解をはかる。
2	キャリア教育に根ざした進路指導と継続的な進学実績の実現	<ul style="list-style-type: none"> 進学力パワーアッププログラム、難関大プロジェクトを通して着実な成果を図る。 教員として幅広い視野と専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 東大オープンキャンパス、OBによる難関大説明会、保護者対象セミナー、各種講演会により生徒及び保護者が高い志を持って学校生活を送れるよう努めた。 校外の研修会に多くの教員を参加させることで、指導技術の向上を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 北高生の部活動を指導しているが、「解決すべきテーマを自分達で考え行動に移せる」生徒が増えてきて感心している。 アクティブラーニングを経験している成果か、自発的に課題解決に向かう活動ができていて、先生方の指導の成果だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来へつながる高い志を持って高校生活を送れるよう、早い時期からの意識付けに結びつくキャリア学習を工夫する。 進路志望の多様化に対し、それぞれの志望に意欲を持って向き合えるよう、指導を工夫する。 研修成果を全体にフィードバックする機会の設定や伝え方を工夫する。
3	規律ある生活習慣の確立と安心・安全な学校生活の保証	<ul style="list-style-type: none"> 諸活動を通じて集団への所属感や連帯感の高揚をはかり、豊かな人間関係作りを目指す。 悩みを抱える生徒の早期発見と効果的援助を行う。 いじめの未然防止と早期発見、早期解決を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面指導を通じた声かけを教職員で進め、関係作りをめざした。 いじめ防止教育相談委員会や拡大生徒指導会議において生徒の情報について共通理解を図り、集団的アプローチに努めた。 hyper-QUを利用し、学級課題の洗い出しとよりよい学級づくりを目指した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習ばかりでなく「人づくり」にも力を入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱える生徒、問題が表面化しない生徒両者に配慮できるよう、教員の観察スキル向上と集団作りのスキル向上を図る。 生徒会やPTA、地域との連携を密にし、安心安全な環境作りを目指す。 今後もいじめの早期発見や早期対応、スムーズな外部機関との連携をめざす。

(11) 総括	学校生活全般において、教員と生徒とのコミュニケーションを大切にして、生徒の学ぼうとする意欲を伸ばすことを重点に教育活動に取り組んだ。学習指導では、生徒が学習に自信と意欲を抱けるような授業実践をめざした。また、新学指導要領実施へ向け、校内外の研修会等に参加し理解を深め、現在進行形で進めているあらたな北高構築にいかせるようにした。今後、単位制高校としての北高のあり方を具体化する事業の推進と生徒の実態に即した教育課程の設定、学校生活の中での生徒の活動を支援できる環境作りを継続的に進めたい。
---------	--